

市議会だより

四万十市

議会だより



2022. 2. 1 発行



～もくじ～

- ◎議案 ……1ページ
- ◎一般質問 ……3ページ
- ◎トピックス ……17ページ

発行 四万十市議会 (編集：広報広聴委員会)
〒787-8501 高知県四万十市中村大橋通4丁目10番地 TEL 0880-34-5071 FAX 0880-34-1827

四万十市消防出初式

令和3年第2回臨時会

四万十市議会第2回臨時会は、10月15日に1日間の会期で開催されました。「令和3年度補正予算」2件の議案が提出され、慎重に審議をおこないました。

議案番号	件名	結果
1	令和3年度四万十市一般会計補正予算について(第6号)	全会一致可決
2	令和3年度四万十市国民健康保険会計診療施設勘定補正予算(第3号)について	全会一致可決

令和3年12月定例会

四万十市議会12月定例会は、12月6日に開会し、12月21日までの16日間の会期で開催されました。今期の定例会には、「専決処分の認定」1件、「令和3年度補正予算」10件、「条例の改正」9件、「その他」4件、「諮問」2件の議案が提出され、慎重に審議を行いました。

一般質問では、14名が「環境施策」、「大学誘致」、「無電柱化」などについて質問を行いました。

議案番号	件名	結果
1	専決処分の承認を求めることについて (令和3年度四万十市一般会計補正予算(第7号))	全会一致承認
2	令和3年度四万十市一般会計補正予算(第8号)について	全会一致可決
3	令和3年度四万十市一般会計補正予算(第9号)について	全会一致可決
4	令和3年度四万十市国民健康保険会計事業勘定補正予算(第2号)について	全会一致可決
5	令和3年度四万十市国民健康保険会計診療施設勘定補正予算(第4号)について	全会一致可決
6	令和3年度四万十市後期高齢者医療会計補正予算(第1号)について	全会一致可決
7	令和3年度四万十市と畜場会計補正予算(第1号)について	全会一致可決
8	令和3年度四万十市介護保険会計保険事業勘定補正予算(第2号)について	全会一致可決
9	令和3年度四万十市水道事業会計補正予算(第2号)について	全会一致可決
10	令和3年度四万十市下水道事業会計補正予算(第1号)について	全会一致可決
11	四万十市行政財産の目的外使用に関する条例	全会一致可決
12	四万十市公共用財産管理条例の一部を改正する条例	全会一致可決
13	四万十市行政組織条例及び四万十市職員定数条例の一部を改正する条例	全会一致可決
14	四万十市情報公開条例の一部を改正する条例	全会一致可決
15	四万十市立学校設置条例の一部を改正する条例	賛成多数可決
16	四万十市国民健康保険条例の一部を改正する条例	全会一致可決
17	四万十市印鑑条例の一部を改正する条例	全会一致可決
18	四万十市駐車場条例の一部を改正する条例	全会一致可決
19	四万十市立まなびの館条例を廃止する条例	全会一致可決
20	字の区域及び名称の変更について	全会一致可決
21	公の施設の指定管理者の指定期間の変更について(蕨岡生活改善センター)	全会一致可決
22	公の施設の指定管理者の指定について(カヌー館、四万十ひろば、四万十市林業研修施設)	全会一致可決
23	公の施設の指定管理者の指定について(道の駅「よって西土佐」)	全会一致可決
24	令和3年度四万十市一般会計補正予算(第10号)について	全会一致可決
諮問1	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて(橋田 まや氏)	全会一致同意
諮問2	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて(岡田 志津氏)	全会一致同意

議案の賛否の状況

	小出徳彦	宮本幸輝	白木一嘉	宮崎努	川村一朗	安岡明	平野正	上岡正	山崎司	谷田道子	垣内孝文	西尾祐佐	大西友亮	酒井石	松浦伸	川淵誠司	上岡真一	山下幸子	廣瀬正明	寺尾真吾
第15号議案	議長	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	×	欠席	○	×	○	○	×	○

ただ ここを質す!

一般質問

質問 順位	質問者	質問要旨	質問掲載 ページ
1	谷田道子 (一問一答)	1 四万十市文化複合施設 2 高齢者支援 3 障がい者支援	3
2	川淵誠司 (一問一答)	1 大学誘致について 2 学校教育 3 保育行政	4
3	山下幸子 (一問一答)	1 デジタル化社会の中で 2 環境・市民生活 3 HPV ワクチン積極的勧奨再開に向けて	5
4	上岡 正 (一問一答)	1 上水道行政 2 大学誘致	6
5	大西友亮 (一問一答)	1 公私連携幼保連携型認定こども園 2 市長の政治姿勢	7
6	山崎 司 (一問一答)	1 岩田川の洪水対策を早急に 2 大川筋集落活動センターの支援を 3 県道佐田～カツラ山間の改良事業促進を 4 市道掃地山～藤の川線の整備を 5 岩田地区の国土調査事業の完了	8
7	川村一朗 (一問一答)	1 身近な市道や施設の整備 2 松野町上家地地区の養豚場建設 3 森林の環境整備	9
8	上岡真一 (一問一答)	1 住んでよかった町づくり 2 保育所教育について 3 学校教育	10
9	寺尾真吾 (一問一答)	1 具同保育所移転改築事業 2 市民生活の安心・安全 3 跡地利用 4 明るい選挙の推進や投票率向上に向けた活動	11
10	松浦 伸 (一問一答)	1 消防施策 2 林業施策	12
11	垣内孝文 (一問一答)	1 本市無電柱化の取り組み 2 2025年大阪・関西万博と本市経済連携強化 3 新型コロナウイルス感染症第6波への備え	13
12	廣瀬正明 (一問一答)	1 老後の安心と若者が住める四万十市 2 防災対策 3 中学校の統合 4 セロカーボンへの取り組み 5 四万十川沿いの景観	14
13	西尾祐佐 (一問一答)	1 公共施設の適正な管理 2 産業振興 3 環境施策	15
14	安岡 明 (一括)	1 経済の活性化推進策 2 「生きる力を育む」教育の推進 3 教育現場の諸課題対策	16

一般質問は12月13日(月)から15日(水)の3日間行われました。

谷田 道子 議員



☆高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるために ☆障がい者の負担軽減を支援するために



↑一般質問の動画はこちらで見られます。

高齢者の聞こえの支援について

質問 70代の約半数が加齢性難聴と言われ、認知症のリスクもたかまり深刻な課題です。厚生労働省が実態調査を実施しましたが、その内容は何ですか。

答弁 自治体における難聴高齢者把握、補聴器利用に関する施策等の実態調査を行いました。

結果を踏まえ、難聴を早期に発見する仕組みづくり、耳鼻咽喉科医との連携、補聴器使用後のフォローの実施などが必要とされています。

質問 昨年3月議会でもバリアフリー化を求めました。その後の本市での取り組みはありますか。

答弁 高齢者支援課の窓口にて、「ヒアリンググループシステム」を1台設置。また、助聴器を6台各課及び西土佐支所に設置しました。

質問 難聴を早期に発見する仕組みづくりの1つとして、「聞こえチェックシート」を活用できないでしょうか。このチェックシートは10項目の質問がありチェックした数により難聴かどうかを判断できるシートです。

答弁 「聞こえのチェックシート」は難聴の早期発見に有効であると考えます。健康診査時や地域包括支援センターでの相談時、また、健康福祉委員会などで活用を検討していきたい。



緊急通報装置

質問 今のシステムは来年度末までの契約だが、今後の方向性はどのように

答弁 高齢者の見守りの方法としては、カメラでの見守りやセンサーなど、また、郵便局員や配達業者が見守りを行う仕組み等もあります。GPS端末装置を活用するといったものもあり、今後1年をかけて高齢者の見守り体制について検討していきたい。

特別障害者手当

質問 どのような方が該当しますか

答弁 重度の身体障害が2つ以上重複している人。内部障害により絶対安静の人。身体機能障害により日常生活動作能力の評価が極めて重度の人。精神又は知的障害により日常生活能力の評価が極めて重度の人が該当します。

日常生活動作能力や日常生活能力の評価は、「ひとりできる」「介護があればできる」「できない」といった状態を医師が評価し、申請

の際に診断書提出。障害者手帳や介護認定の有無に係らずに基準に該当すれば対象となります。



質問 要介護4と5の方が、合わせて630人もいるのに、特別障がい者手当の受給者は38名とかなり開きがあります。この点は

答弁 対象となる方が受給していない可能性が有りです。

今後、高齢者支援課とも連携し、相談支援従事者・ケアマネージャーなどの支援者などから声かけが出来るように、改めて制度周知する事も一つの方法として検討を考えています。

川渕 誠司 議員



大学誘致について 学校教育について

ジェンダーレス制服の導入を提案する 具同保育所の移転改築について 木造を求める～園児たちに木のぬくもりを

大学誘致について

質問 県は安芸市に看護専門学校の新サテライト教室を整備すると発表した。学生確保における影響は

答弁 安芸市は3年制であり、4年制としての看護教育の充実という点をアピールして学生確保に努めたい。

質問 県の支援を取り付けることはできたのか

答弁 12月27日に学校法人とともに高知県知事を訪問し、可能な限りの補助をお願いする予定である。

質問 放課後児童クラブの大学建設後の運営場所は確定しているのか

答弁 現在計画中の「(仮称)下田地区防災コミュニティセンター」を間借りすることを検討している。

質問 法人は放課後児童クラブに大学の一角を提供し、

学生も運営に協力するという構想をもっていたのではないのか

答弁 当初そういう構想はあったが、管理面等の問題で部屋の提供については再検討された。

質問 市が学校法人に提供するものは

答弁 上限10億円の補助金、校地校舎となる旧中医学研究所の建物と土地、下田中学校の校舎、体育館及びグラウンドを含む土地の無償貸与及び旧中医学研究所の備品等の譲与である。

学校教育について

質問 大学誘致が実現しなかった場合、下田中学校在校生で残留希望者は、現在の下田中学校で卒業まで学校生活を送るといった認識でよいか

答弁 下田中学校に通う子どもたちのために何が最善かを考え、必要な対応をとるべきと考える。

質問 文部科学省通知「校則の見直し等に関する取組事例について」への対応は

答弁 取組事例を参考に、学校や地域の実態に応じ、適宜校則の見直しを図るよう各学校に文書で周知した。

質問 ジェンダーレス制服の導入を提案する

答弁 生徒や保護者等とも協議しながら、見直しに着手していくことは必要であり、学校の主体性を尊重しながら、情報提供に努めたい。

具同保育所の移転改築について

質問 移転改築にあたり、保育のプロである保育士の視点や意見を十分取り入れるべきと考えるがどうか

答弁 保育士や調理員の視点からの意見は随時もらっており、保育士の意見は十分に反映するように取り組んでいる。

質問 子どもたちには木のぬくもりのある最高の環境で育ててほしい。森林率85%の本市の保育所は木造で建てるべきではないか

答弁 木造と鉄骨造の経費の比較や市産材の調達利用に関すること、また、地域経済への波及効果、工期の関係等を整理し、木造の可能性について総合的に検討してみたい。



移転改築が待たれる具同保育所



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

山下 幸子 議員

デジタル化社会の中でICT活用は ごみ問題から地域共同生活へ 子宮頸がん予防ワクチン接種について



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

デジタル化社会の 中で

質問 ICT導入について、タブレット導入にむけた検討を、議会だけでなく行政も同時に導入することで、ペーパーレス化や資料の準備に係る時間削減等、働き方改革に繋がるのではないかと考えるが、市の考えは

答弁 市では、令和3年3月議会でゼロカーボンシティを宣言し、市職員一丸となって取り組みを開始したところです。ペーパーレス化については、業務効率の改善やコストの削減等にも繋がるなど、多くのメリットがあります。また、何らから電子化を進めていくか、経費はどの程度かかるのかなどを調査・研究のうえ行政文書のペーパーレス化について検討してまいります。

環境・市民生活につ いて



質問 ごみ問題について、一般家庭ごみの出し方について、一昨年12月に地区を回り区長に対し、普通ごみの出し方についてお願いした内容は

答弁 基本的にステーション方式で行っているが、以前より戸別収集が混在している地区があり、収集作業の効率化や交通面の安全確保などから、戸別で収集している地区においても収集箇所を一定まとめたいと考えており、その対象となる地区長等にステーション化の主旨を説明し、協力の呼びかけを行っております。

質問 出来ない地区に対して、本市の対策をどの様にとってきたのか

答弁 まずは2〜3軒ずつまとめていただき、収集箇所を予約していただけるようをお願いしている。年末年始に地区総会等があるので区長に説明していき、区長会等にも説明していく。

質問 家の中や周りに、ごみをためこんでいるごみ屋敷問題について

答弁 ごみ屋敷問題については、支援者の関わりで、一旦片付けることができても、再び溜まり始めてしまう事もあり、継続的な関わりや見守り、要因となつてその家庭が抱える複合的課題に対する、長期的な支援として、コミュニティソーシャルワーカーをはじめ、市の関係課、外部の関係機関、地域住民の協力を得ながら、今後もしっかり取り組んでいく必要がある。

子宮頸がん予防ワ クチンの定期接種 について

質問 国の積極的勧奨の再開に伴い、本市の情報提供方法について

答弁 準備が整った市町村については、令和4年4月より前に実施することも可能であることから、医療機関の負担が一時期に偏りが出ないよう調整をしたうえで、ワクチン接種のメリットとリスクと併せて早めに情報提供を行うこととしたい。



上岡 正 議員



送水管布設替えについて 大学誘致について

質問 災害時（地震）の断水が懸念されるが、水管橋は昭和48年に布設され、耐用年数がきている。和歌山で水管橋が落ちたが、国土交通省が百笑堤防を補強している現在、国交省と協議し堤防の工事中に水管橋の布設替えをやるべきと考える

答弁 百笑水管橋及び送水管は、四十万市民の水の安全を確保するうえで、非常に重要な施設であると認識しております。この水管橋は、建設後50年以上が経過しており、老朽化対策や耐震性確保の面で課題があります。百笑堤防補強工事と併せた水道施設の更新については、国土交通省との連携が必要となつてまいりますので、今年3月から、河川管理者であります、国土交通省と協議、調整を行っております。内容としては、送水管の位置や構造、既存水管橋の撤去を含めた占用許可条件の調

整を進めているところであります。なお、更新後の送水管は出来上がった堤防の表面に添わせる形で布設するよう協議しております。今後の計画としましては、今年度中に許可条件について河川管理者との調整を完了し、令和4年度には、送水管の詳細設計業務に着手する予定です。送水管の更新工事と既存水管橋の撤去につきましては、令和5年度からの工事着手を目標に取り組んでまいります。



百笑水管橋

質問 9月議会の答弁についてお聞きします。答弁内容に疑義、不満を持っております。質問にまともな答えがない。まるで国会での予算委員会の大筋答弁のように答弁をはぐらかす。一例をあげると私はこのように質問をしております。誘致する大学について、この大学を卒業したらどんな国家資格の受験資格が得られるのか。教員の免許は単位を修得したら取れる大学か。そのようにお聞きしております。答弁では国家資格は学士の看護学となっておりません。教員資格というものは今のところ聞いておりません。と答弁を頂きましたが、全くのでたらめです。実際は卒業年次の国家資格は看護師の受験資格のみ。そして教員免許は誘致大学では取れません。私が全くのでたらめと言っているのは質問に答えていない。また、故意か認識不足か私にはわかりません。

間違いを認めて訂正するのかが答弁をお願いします

答弁 正確なお答えが出来なかつたことについてはお詫びいたします。正しくは、取得可能な資格は看護師国家試験受験資格で教員免許については取れません。大変失礼いたしました。

質問 大学誘致は誰の為に

答弁 四十万市・幡多地域・高知県の為に誘致をするものです。



↑一般質問の動画はこちらで見られます。

大西 友亮 議員



公私連携型認定こども園と市のかかわりについて メガソーラーについて



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

公私連携型認定こども園と市のかかわりについて

質問 設計施工の入札について、市はどの様に関わってきたのか

答弁 後方的支援を行っているので、この中で、入札執行状況の全般について把握している。

質問 市の場合、入札に関わる書類等を保管していると思う。今回の認定こども園の場合は、入札や施工にあたる書類等はどこが保管をするようになるのか

答弁 今回の認定こども園の入札については、運営主体である社会福祉法人の規定に従って、法人が保管することになる。

質問 今回の入札の場合、誰が入札資格を定めるのか伺う

答弁 入札の参加者については、実施主体である法人が定める事になる。

質問 認定こども園の建設工事に伴い、近隣の住宅で被害が出ている可能性がある。これまで市と住民、市と園のそれぞれで協議を行っているが、市が責任を持って調査をすることは出来ないか

答弁 建設工事によるトラブル等については、法人と相手方双方で解決して頂くものと考えている。



質問 協定書の中に第三者に損害を及ぼしたときは、その賠償の責を負うとある。つまり園が第三者に損害を与えた場合、園が賠償の責任を負うということですか

答弁 協定書の中に第三者に損害を及ぼしたときは、その賠償の責を負うとある。つまり園が第三者に損害を与えた場合、園が賠償の責任を負うということですか

が、今回の園と住民の問題についてそもそもここに市の監督責任はないのか

答弁 補助する立場であるとか、土地を貸している立場であるとか、公私連携型という意味においても、今回のトラブルについては、指導・監督等の責任はないと考えている。

伊方原発について

質問 伊方原発が再稼働されたことについて、市長はどのような考えや感想をお持ちか

答弁 電力会社において、安全対策と情報公開を徹底した中で、伊方原発の当面の再開については仕方がないのではないかと思っいる。ただ、原発そのものは、将来的には、日本国からはなくなっていくだろうと考えている。

メガソーラー訴訟について

質問 今回の裁判は四万十川を守る観点からも重要な裁判になると思う。そこで市長のこの裁判に望む覚悟を伺う

答弁 令和元年9月議会でも、「四万十川流域（三里島の宮地区）における大規模太陽光発電の建設を許可しないよう求める要望書」が採択されている。

裁判の行く末は大変重要な意味をもっていると考えている。裁判については口頭弁論前ですので、詳細について述べることは差し控える。四万十市の主張が全面的に認められるよう、これから四万十川条例のもとである高知県、市の顧問弁護士と十分協議調整をしながら、この裁判に対応していきたいと考えている。

山崎 司 議員



- * 岩田川の洪水対策を早急に
- * 大川筋集落活動センターの支援を
- * 県道川登～中村線の改良促進を
- * 市道掃地山～藤ノ川線の整備を
- * 岩田地区の国土調査完了について

岩田川の洪水対策を早急に

質問 区長様方と国交省に要望して来た岩田川と後川の合流点の河床掘削を2カ年で行って頂いており、県に要望して来た岩田川の掘削も利岡地区で行われているが、未着手の箇所もある。

回答 後川・岩田川とも、継続して掘削して頂く様、国・県に対して、市も一緒に要望して頂きたい。
又、市に強く要望して来た岩田橋補修工事の状況は？

回答 岩田川の治水対策は、市としても重要課題と考えており、今後も関係機関と連携し、事業の推進に努めてまいります。
又、岩田橋の補修工事も、2カ年計画を1年に短縮して、3月末までに完了させる予定です。

質問 県による岩田川の抜本的な改修計画は？

回答 来年度、用地取得に着手すると共に、令和5年度から、国の補助事業導入を目指しているとの事です。



河床掘削が進む 利岡地区の岩田川

大川筋集落活動センターの支援を

質問 現在協議されている事業計画と、市の一層の支援を

回答 「かわらっこ」付近にコインランドリーの整備や川登小学校を利用した事業構想が協議されており、市も出来る限りのサポートを行うて参ります。

県道川登く中村線の改良促進を

質問 区長様方と県に要望して来た、三里工区の事業継続と、佐田くカツラ山間の工事促進に向けて、市の力強い支援を

回答 本路線の改良に向け県への要望支援を行います。
本年度着工した佐田くカツラ山・間では市の地籍調査も完了し、今後円滑な事業の進捗を期待しています。

市道・掃地山く藤ノ川線の整備を

質問 関係者と一緒に、国と市に、大雨で崩壊した道路の復旧と、路面の凹凸が激しい箇所を整備を要望し、検討するとの返事を頂いたが、検討結果は？
又、大雨後の巡回、及び路面の補修を国に強く要望して頂きたい

回答 10月に現地で要望を頂いた崩壊箇所の復旧は、

森林管理署が、測量・設計に着手しており、来年度の予算確保に向けて要求して行くとの事でありませう。
又、大雨の後は、職員が巡回し、重機等による修繕を行うとの事でありませう。
尚、市の管理区分についても同様に、点検・修繕に取組んで参ります。

岩田地区の国土調査完了について

質問 カツラ山団地区長様方と要望して来た、国土調査と市道認定について、国土調査完了に伴い、団地内の4路線の市道認定について要望をしたが、取組みはどの様になっているか？

回答 4路線の市道認定や認定済み路線の登記事務に取り組んで参りますが、どちらも、道路用地の提供が必要であり、地区の皆様と連携し取り組んで参ります。



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

川村 一朗 議員



***市道や市施設の整備・補修を!**
***西土佐地域の上流となる愛媛県の養豚場建設については四万十市としての対応を!**
***林業活性化にむけ、森林環境譲与税を活用した取組を!**



↑一般質問の動画はこちらで見られます。

身近な市道・施設の整備・補修を

質問 下方住宅の中庭は全ての住宅への交通路となっているが、水たまりが複数できている

答弁 年度内に整備を行う。



下方住宅の中庭

質問 西土佐小学校前の市道の横断溝と舗装面の段差解消を。また、小学校と学童保育施設間の市道の浸水対策を。この道は西土佐保育所や診療所への道でもあり、早急な取組を

答弁 年度内にできる範囲で対応したい。

質問 西ケ方地区の市道でよう壁が崩れて、数年放置されている所がある。また、よう壁の隙間の補修も必要だ

答弁 今後も変化を確認しながら、対応する。年度内に隙間は埋め戻す。

質問 茅生大橋から茅生地区に入る市道の路面が凸凹だ。岩間沈下橋の復旧に伴って、交通量増加が予想される。整備を

答弁 優先順位をつけ、予算の範囲内で段階的に実施したい。

愛媛県松野町の養豚場建設について

質問 今回の養豚場建設は西土佐の下家地と中家地区の上流となる。住民の多くは濁水や水不足等の心配を抱えている。松野町と行政として、協定書等の締結はできないか

答弁 協定は考えていない。心配事等は西土佐総合支所が対応する。

質問 流域住民への影響についてどのように考えているのか

答弁 県道の交通量の増加。整備地近くでは、騒音や臭いの心配はあるかもしれない。説明では排水は出さない、深井戸を掘るので、濁水はないとしている。プラス面としては県道の改良等。

質問 今後、流域住民に被害等の影響が出た場合の市としての対応は

答弁 まず、悪影響を出さない検討が必要だ。設置後は県が堆肥舎の管理状況、周辺環境への影響等を検査することになっている。

林業の活性化を

質問 森林経営管理制度活用においては山林の所有者の管理に対しての意向調査が必要だが、当初本市の場合は調査に40年間かかるとなっている。もっと期間短縮できないか

答弁 15年から20年で完了させるよう計画的に進めている。

質問 この制度で森林整備に当たる委託事業者の公募範囲の対象に、自伐型林業従事者・個人事業者を含むことはできないか

答弁 私有林については森林所有者の判断となるが、市に任された場合は県が認定する業者となる。個人事業者も県の認定を受ければ委託可能だ。

質問 森林環境譲与税の活用で、河川沿いの藪の整備はできないか

答弁 藪整備は「森林山村多面的機能発揮対策交付金事業」でお願いしたい。



自伐型林業風景

上岡 真一 議員



住んでよかった町づくり

具同の井ノ上川に 為松公園について

質問 井ノ上川については、いたる所で土砂の堆積が見られ、草木も繁茂し、排水能力を阻害しているばかりか、子どもが川に落ちたら、探すことも出来ない状況。
この井ノ上川の浚渫は必要ではないか

質問 為松公園のアンケート結果の活用方法は

答弁 今年度より田黒橋から下流へ約150m間の繁茂した樹木伐採を実施するために準備をしていると聞く。今後の取組については来年度、明屋書店付近から渡川病院付近までの約400m間と、具同小学校付近から上流へ約700m間の大規模な伐採に取組むこととし、引き続き地域の治水安全度の向上に努めると聞いている。

答弁 今回のアンケート結果を踏まえ、今後の為松公園の在り方を考えた結果、広い敷地を活かし、3つのゾーンの区分、具体的には、①中村城跡、郷土博物館を中心にして歴史・文化が感じられるゾーン②子供から高齢者などの幅広い世代に利用される、遊具や健康づくりなどを楽しむゾーン③これら以外の広場や丘陵地、園路については桜やツツジなどの自然鑑賞や風景が楽しめるゾーン、この3つを区分し、それぞれの持ち味を生かし、幅広い世代の方に利用がされるような取組が重要だと認識した。

無電柱化について

質問 無電柱化の推進に関する進捗状況は

答弁 令和3年12月9日、高知県より国道439号を含む4路線8カ所が第8期の四国地区無電柱化推進計画の基本計画として決定されたと連絡があった。

これにより、国道439号のうち、中村駅前から中村大橋通六丁目までの約1・2km区間が、令和7年度までの事業着手を目標とすることが、四国地区無電柱化推進協議会において、委員全員の合意のもと、正式に決定された。

保育所の危機管理について

質問 不審者侵入対応訓練について、他県では子どもを怖がらせないように「いかのおすし」という事前に決めた隠語を使い訓練を行っているが、本市の保育所は防災訓練の中に、不審者に対する対応訓練を行っているか

答弁 少しでも不審な点が見られた場合は、園児を安全な場所に出るだけ早く移動させる。その場合には、合図を決めておく。四十万市では特定のキーワードを用いている。相手の言動に注意し、児童のいる場所から遠ざける、そして、他の職員が不審者として非常通報で警察に通報するという流れで訓練を行っている。



具同井ノ上川



↑一般質問の動画はこちらで見られます。

寺尾 真吾 議員



“具同保育所移転改築・野良犬保護・跡地利用など” を質問しました。



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

具同保育所改築

質問 保護者と保育士要望の検討は

答弁 保護者要望は遊戯室を広く、プールの設置位置等。保育士は収納スペースの確保、園庭などへの寒冷紗設置や、医務室・相談室・職員休憩室各室の確保などがあり検討している。

質問 ゼロカーボンシティ宣言で木造化・木質化による脱炭素化の推進を図るか

答弁 本市は市産材利用促進方針を定め、市有施設は原則木造とすることや、内外装や設備・備品類等は木質化を積極的に進め、木材は原則市産材を使用することとしている。この実現において、木造化・木質化の推進はゼロカーボンの取組として有効である。

質問 木材・木造の人への生理的・身体的な効果は

答弁 木材を建築物等に用いた際の生理的・身体的効果は、木材の香りにストレスを軽減し、免疫細胞の働きを向上させるなどの効果。視覚的には「あたたかい」などの良好な印象を与える報告がある。ほかに、調湿作用、断熱性が高く、転倒時の衝撃緩和などの効果が期待される。

質問 木造は鉄骨より経済波及効果は大きいか

答弁 条件次第では構法に木造を取り入れることで、鉄骨造などよりも経済波及効果が大きい傾向が示唆されている。また、市産材活用の場合、地域の林業、製材業等の各種業界や森林所有者へ利益が還元されるだけでなく、森林資源の循環利用を通じた適正な森林整備も期待できる。

質問 具同保育所を木造に

答弁 大きな施設となる。費

用やその財源、スケジュール等様々な課題を整理し、再検討している。

野良犬保護

質問 野良犬3〜4匹が数年来住まう神社がある。毎年、子犬が産まれ保護もしている。

子どもから「犬が追っかけてくるから危ないよ」と言われたが、把握しているか

答弁 神社の前は児童の通学路沿い、子ども達に危害が及ばないか危惧し、注意喚起を行っている。

質問 県に成犬の野良犬の保護を願いつつ、数年が経つ。強く県に要望する

答弁 楽観視できない懸案事項。対処は試みてきたが、問題解決が図られていない。近隣住民の不安解消や安全確保を図るべく、早期解決

に向けた対策が活動的にされるよう、県により強い働きかけを行う。



保護された子犬

跡地利用について

質問 旧もみじ保育所は地域住民から活用要望がある。また文化センターの場所は女学校など歴史あり、周辺は保幼小中高や為松公園、商店街がある立地。両跡地利用をどう考えているか

答弁 2施設とも立地の良い場所にある。近隣住民の意見も聞き、有効な活用方法を全庁的な取り組みとして決めていく。

松浦 伸 議員



消防施策について 林業施策について

10月6日の西土佐
地域での消火活動
について

質問 消火栓と消防用ホースの接続が出来ず、水利確保に奔走したようだが、状況把握出来ているか



現地の消火栓

答弁 消防水利の基準となる消火栓は呼称65mmの口径が必要だが、西土佐地域では敷設水道管の大きさや水圧に応じ消火栓を整備してきた経緯があり、口径50mm、40mmのものがある。

今回の火災現場近くの消火栓は口径50mmで、異径金具を取り付けて口径の異なるホースを接続する取り扱いとなり、異径金具の使用について十分な情報共有がなされていなかった。

また、水利基準に満たない消火栓は、消防隊到着前

に地区の方や防災組織の消火活動での使用を想定している。

質問 今後の対応は

答弁 情報共有を徹底し、消防訓練等を通じて確認する。

四万十ヒノキブランドについて

質問 四万十ヒノキブランドの認知度について市の認識を問う

答弁 発足11年目を迎えた四万十ヒノキブランド化推進協議会の活動として、県内外のイベント参加やヒノキ製品を取り扱う協力業者を通じて認知度向上に取り組んできた。残念ながら、他の国内有名産地と比較すると低い状況。

質問 認知度向上に向けて今後の取り組みは

答弁 関係市町村で連携して植栽や間伐等、施業方法

についても研究、実験等を行いしっかりとした産地化を目指した取り組みを行っていく。

併せて、四万十ヒノキ端を使用した割り箸を管内の飲食店で活用していただく等、その良さを一般の皆様にも知っていただけるような取り組みも進めていきたい。

四万十の森公園について

質問 四万十の森公園整備の事業目的、事業費について問う

答弁 この場所は公園整備を目的として造ったものではなく、国の生活環境保全林整備事業を活用して、森林の多面的機能を高度に発揮させるべく、自然林の森林整備、丸太柵工等の治山施設整備、車道及び遊歩道整備等を県営事業で行ったもので、旧西土佐村時代の平成13年度に完成。事業費については、全て国

補助及び県費で、工事が本格化した4カ年で約3億9千100万円

質問 現在の活用状況は

答弁 頻度は低いものの地域住民や保育園児の散策、小学校のフィールドワークの場として活用されている。

質問 林道赤又田山線（管理車道）は崩土箇所や倒木、舗装された林道横の草木の生い茂りにより、通行困難な状況になりつつある。今後の維持管理について問う

答弁 人家のない路線だが通行に支障のない状態は維持する必要がある。状況に応じて適切な管理を行っていききたい。



↑一般質問の動画はこちらで見られます。

垣内 孝文 議員



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

・本市無電柱化への取り組みについて(緊急輸送道路への) ・2025年大阪・関西万博を捉えた本市経済連携強化について ・新型コロナウイルス感染症第6波への備えは

無電柱化の取組について

質問 現在の本市無電柱化実現に向けての位置づけと状況は

答弁 12月9日に県より連絡があり、四国地区無電柱化協議会で令和7年度迄に国道439号(駅前通り)の無電柱化に事業着手すると正式に決定された。事業主体は高知県で市としても全力で支援協力していく。

街路樹について

質問 駅前通の無電柱化が実現することにより人が四季を感じ歩きたくなくなるような街路樹の変更、植栽はできないか

答弁 無電柱化は防災の機能強化を図るだけでなく、良好な景観の創出、安全で快適な歩行空間の確保等、様々なメリットがある。整備効果を更に高めるうえで、街路樹を含む空間の活用方法等についても議論を進めていきたい。



大阪・関西万博について

質問 経済波及効果や文化交流等万博開催についてどの様に捉えているか



答弁 令和7年に開催される万博は、パビリオン等が135棟整備され、国内外から約2800万人の来場が見込まれ、経済波及効果は約2兆円という大プロジェクトである。本県では濱田知事が前大阪府副知事であった事でもあり、関西との連携強化を図るため、本年3月「関西・高知経済連携強化戦略」を策定。県内市町村と連携・協調しながら課題やベクトルを共有し、取り組んでいくこととしている。

コロナ感染症第6波への備えについて

質問 コロナワクチン3回目の接種は

答弁 令和3年5月に2回目接種した入院患者、高齢者施設入居者及び施設従事者の接種を令和4年1月から実施。2月上旬から65歳以上の在宅高齢者の接種を開始する

質問 5歳から11歳への接種実施予定は

厚労省より早ければ2月から接種を開始できるよう準備を進めることとの要請があった。現在市内医療機関に5歳から11歳の接種受入が可能か調査を行い複数の機関から受入可能との回答を受けた。今後、接種対象者への意向調査を行う等、接種人数の見込み、集団接種、個別接種等の接種方法の検討を行う。

質問 コロナ後を見据えた社会経済活動の取り組みは

答弁 県の「高知家あんしん会食認証制度」と連動し「あんしん会食推進の店応援金」を、事業継続に必要な資金等を融通する「中小企業振興資金制度」の実施、新分野展開等にチャレンジを支援する「新事業開発事業費補助金」や地域産品の商品開発と販売促進を図る事を目的とする「地域産品販売促進事業費補助金」等を創設し地域経済の持続と回復、活性化を図り強い経済、地域づくりに向けて取り組んでいく。

廣瀬 正明 議員



安心して暮らせる四万十市に

介護の充実と雇用の創出について

質問 家族の介護のため、仕事をやめる人がいると聞いている。施設の増設、受け入れ人数を増やす必要がある。不足している介護職員を増やすと同時に四万十市の雇用を増やし、リターン・ターンのため雇用の条件の改善、市独自で給与の上乗せを行うことはできないか？

答弁 介護人材不足を考慮し、サービス種別の転換や既存施設の定員増を中心に整備を位置付けている。必要な方が利用できるように介護サービスの整備、充実の検討も必要だが、健康寿命を延ばす取り組みも必要と考える。



避難所への衣類の備蓄について

質問 津波発生時など緊急を要する避難の際、着替えを持ち出すことが困難になることが想定される。事前に衣類の備蓄は行えないか？

答弁 備蓄倉庫のスペースに余裕があれば活用して問題ない。今後、地域の皆さんの意見を伺いながら、進めていきたい。



バス通学と部活動について

質問 部活動とバスの時間調整が困難な場合、希望の部活動が出来ないことがあると聞いている。対応は？

答弁 全員が部活動を自由に選択出来るようにすべきと考えている。

今後、個別に相談を受け、部活動の運用やバス運行等の工夫により解決を図りたい。

ゼロカーボンへの取り組みについて

質問 公共交通を利用する機会を増やす市としての取り組みは？

答弁 公共交通の利用拡大は大事な視点と認識している。運行業者の取り組みを広報等での周知・啓発に努めて行きたい。

質問 樹木を大切に思う気持ちには環境意識を高めることになる。市民による植樹の機会を市として作れないか？

答弁 環境保全意識の向上につながるその認識はあるが、現時点でその計画はない。こうち山の日活動行

事としての植樹など、紹介していきたい。

質問 資料の一部にタブレットを用いる等、市役所内の紙の消費を少なくできないか？

答弁 必要性はもちろんだが課題もあり調査・研究のうえ検討する。

四万十川沿いの景観について

質問 春は桜、秋はモミジ、四万十川沿いの景観を良くしたいとの要望がある、一番の課題が植える場所、市から力添えを出来ないか？

答弁 四季を感じるような樹種の植樹を行うことも一案と思う。「高知県森と緑の会」から苗木の助成を受ける際は農林水産課へ相談を、地域で植樹を行う際、市有地が適地であれば市へ相談を、県有地であれば機関に相談が必要な際等には市として可能な支援をおこなう。



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

西尾
祐佐 議員



市内休校舎の利活用 産業振興 環境施策について



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

市内休校舎等の利活用について

質問 市内の休校、休校予定の小中学校数はいくつかわかるか

答弁 中村地域で13校、西土佐地域で7校、計20校。

質問 廃校舎の数も問う

答弁 8校。

質問 休校舎の年間維持管理費について問う

答弁 学校の規模にもよるが、概ね1校当たり、30～60万円程度となっている。

質問 学校は、地域の中心的な場所です。今までのコミュニティの核をなしてきた。また、年間で多額の維持管理費も掛かっている。有効に活用していくべきだが、市の考えを問う

答弁 まず、教育委員会としての利活用方針があれば、その方針を優先し、なければ、未利用学校施設有効活用

用検討プロジェクトチームで方針を検討していく。

質問 利活用については横断的に多くの課が関わることも考えられる、最終判断はどこか

答弁 このプロジェクトチームで利活用の可否をさび分けし、可の場合、利活用の方針を検討している。最終判断はこのチームの方針を踏まえ、市長部局や教育委員会等、各々の執行機関が行う。

産業振興について

質問 魅力的なプロジェクトや事業を創出していくために、アイデアやビジネスプランのコンテスト等を開催してはどうか

答弁 まずは庁内機関で、募集や事業化に至るまでの課題等を共有のうえ協議しながら、ビジネスプランコンテストが新たな事業となりうるか、調査研究していきたいと思っている。

環境施策について

質問 ゼロカーボンシティ宣言以降の市の取組みについて問う

答弁 本市では、「地球温暖化対策実行計画」の区域施策編をまだ策定していないので、県のアクションプランの方向性に合わせて、来年度、計画を策定し実行していく予定。

質問 国の地域脱炭素移行再エネ推進交付金についての申請はどうか

答弁 来年度の計画策定をしながら考えていきたい。

質問 本市は豊かな自然と四万十川を有し、クリーンなイメージがある。この特徴とグリーン化関連産業は相性が良く、育成していくべきと考えるが、市の考えを問う

答弁 関係課とも協議のうえ、本市に見合った取組みを探したいと考えている。



質問 小水力発電についての検討状況を問う

答弁 平成23～24年度にかけて、大用地区での検討をしたが、採算が合わず導入が困難であるとの結論になった。

質問 小水力発電の適地を探し、採算が合うかを検討するために、可能性調査の実施を検討してはどうか

答弁 可能性調査や事業化について、高知県公営企業局の補助金を利用することも考え、検討していく。

安岡 明 議員



地域経済の立て直しと若者支援の推進を!

看護大学開学による経済効果

質問 経済活性化への大学誘致だが効果をあげる為には市民、特に地元との協力関係を築く事が大切。これまでの疑問や不安の解消について

答弁 大学誘致は下田地区の将来へ向けた活性化、本市の地方創生に寄与する施策として進めたが、学校再編や防災対策に心配や負担をおかけした。下田地区の指定避難所等については学校法人と市、地区で三者協定に向け協議を進めている。また大学と地域住民の良好な関係が重要なため意見交換会も考えている。安定的な学生の確保については学校法人の入学希望調査で定員の3倍以上から受験したいとの回答を得ている。

アオノリの陸上養殖等四万十川河口域の新たな活用策

質問 これまで地下水によるスジアオノリの陸上養殖推進について提案してきたがその後の事業化への進捗と、河口汽水域の産卵場所を生かした新たな事業化について



四万十川河口汽水域

答弁 四万十川の水産資源は近年不良傾向、特にスジアオノリは壊滅的な状況。地下水によるアオノリの陸上養殖は、調査・研究を進めるとして5月に室戸の施設を訪問、市の担当者及び指定管理者から現状や施設稼働への課題等を伺った。来年度から休校

中の校舎等を活用し試験的な栽培を検討していく。テナガエビは昨年度、中土佐町の養殖事業を視察。本市での事業化に向けては課題も多く、今後さらなる調査・研究が必要となる。

生きる力を育む教育の推進

質問 中学校再編問題の最終結論の分析について

答弁 7月26日臨時教育委員会にて下田中学校の再編方針を決定。令和4年4月に再編すべきの方針を基本に現1・2年生のうち望むなら令和5年度末まで下田小学校舎に移設し下田中学校を存続。残ることを選択した生徒は望ましい教育環境ではないが十分認識した上で選択されたと解している。

質問 統合問題の中で新しい環境になじめるか不安の声もある。本市のいじめ・不登校生の状況と対策について



下田中学校は下田小学校へ

答弁 平成25年「いじめ防止対策推進法」制定以来積極的な取り組みにより認知件数は増加したが重大事案とされるいじめは数年起こっていない。不登校もここ数年増加傾向で、本市においては不登校担当者を中心に担任やスクールカウンセラー等が連携し家庭訪問など取り組んでいる。学校に登校しづらい子ども達の居場所として旧田野川小学校に「ふれあい学級」を開設、また中村西中学校には不登校担当教員配置サポート事業で「適応指導教室」を設置している。



↑ 一般質問の動画はこちらで見られます。

議員定数が変わります。

四万十市議会議員選挙は、令和4年4月10日告示、同月17日に開票が行われます。現在の議員定数は20人ですが、次の選挙からは2人減の18人が定数となります。

また、各常任委員会の委員定数は以下のとおり変更になります。

	現行	令和4年4月26日から
総務常任委員会	7人	6人
産業建設常任委員会	7人	6人
教育民生常任委員会	6人	6人
予算決算常任委員会	20人	18人

編集後記

2022年の新しい年が始まりました。

年末から年始にかけて穏やかな天候にも恵まれ、下田海岸からも素敵な初日の出を見ることができました。

今年こそコロナ禍から解放されて、マスクなしでも安心して暮らせるようになることを願っています。

さて今年4月には議会の改選が行われます。

私達編集委員の仕事も今回の議会だよりで最後になりましたが、引き続き読みやすく、親しみやすい紙面の編集につとめてまいります。

紙面についてお気づきの点がありましたら、ご遠慮なくお聞かせください。

どうか今年もよろしくお願いたします。

広報広聴委員会

委員長
副委員長

寺谷 平川 山松 山平 廣山
尾崎 村野 崎下 浦崎
眞道 一 幸正
吾子 努朗 正司 伸子 明子

発行 四万十市議会（編集：広報広聴委員会）

〒787-8501 高知県四万十市中村大橋通4丁目10番地 TEL 0880-34-5071 FAX 0880-34-1827
お問い合わせ、ご意見等については「四万十市議会」まで

次回定例会は3月2日からの予定です。ぜひ傍聴にお越しください。

（西土佐総合支所では1階市民室で視聴いただけます）

※議会会議録は議会専用ホームページ（<http://city.shimanto.gsl-service.net/>）で閲覧できます。（令和3年12月定例会会議録の閲覧開始及びホームページへの掲載は3月中旬の予定です。）

【市議会のホームページは…】

URL:<http://city.shimanto.gsl-service.net/>

【YouTubeによる議会ライブ中継・録画映像配信は…】

URL:<https://www.youtube.com/channel/UCuzoCoFLaedC06OQWPBRr5Q>

※市議会ホームページからもご覧になれます。

【市議会のフェイスブックは…】

URL:<https://www.facebook.com/Shimantoshigikai>

【市議会のLINEは…】

LINEの友達検索画面からID検索で追加！⇒市議会ID『@kco2522u』